

地震対策は、ネット上で、より詳しい情報があると思いますが、このレポートは、実体験をもとに、感じた事、こうしたほうがいいと思った事などを、自分の考えでまとめたものです。

転記やコピーは全然して頂いて構いません。

多くの人々の目にとまり、何かの力になればと考えております。

私は、宮城県のとある地域で被災しました。

広範囲にわたった今回の地震でも、被害はひどい地域に分類される地域ではないでしょうか。

その地域にいた時に感じたもの、見たもの、こうしたほうがいいのではないだろうか？と思った事。

そのような色々な思いをここにつづりたいと思います。

避難する

私が家でPCを使っていたその時、グラグラグラと家が大きく揺れました。

数日前から余震が続いていたので、どうせまたおさまるだろうと、心にゆとりを持っていたところ、その気持ちを大きく裏切り、更に大きな揺れが家を襲いました。

ガガガガ！

まともに立っている事すらできないその揺れは、家が壊れてしまうと瞬時に脳裏によぎるほどの大きな揺れでした。

家が壊れると思い、外に出ると、多くの人が同じように外に出ていました。

その時、市の放送が地域全体に響き渡ります。

津波がきます！避難してください！高さは10メートル！

確か、このような放送だったと思いますが、この放送を

聞いた後にとった住民の行動は大きくわけて2つに分類されてきました。

地震で津波が来ると言っても、湾岸から数キロ離れたここには津波は来ないだろうと思い、避難しない人。

迅速に避難した人。

です。

私は、幸い家族と一緒にいましたが、家族がとった行動は前者でした。

「こんな所にまで津波が来たら、大惨事だろ。さすがに大丈夫だって」

「その大惨事が今起きたんだ！逃げるぞ！」

私は何度も避難を呼びかけますが、父は中々納得せず、半ば無理やり車に乗せて、山に避難しました。

家の前に海がある沿岸部の方は、迅速に動いた人が

多かったようですが、私の地域では、ここまで来ないと

思っていた人が多かったと感じます。
(外に出ていた数人を見た感想です。)

外に出ていた周りの人にも

「本当にやばい津波は数キロ先まで来る！俺は逃げるけど、皆も早く逃げるんだ！避難しても何も悪い事はない！用心にこした事はないから逃げてくれ！頼む！」

そう何度も叫んで私は山に向かいました。
(周りにいた人はその後全員無事を確認しました。)

ここで得た教訓

地震や何かの災害が起きた時、オーバーと思える行動をとっても、何も悪い事はない。周りが避難しないから大丈夫だろうではなく、万が一に備えて、避難する心構えを持つ事。

これは、津波の高さにも言える事でした。

私の親戚は津波警報を聞き、山に逃げましたが

湾岸が狭くなってる自分の地域の津波は更に高くなると

考え、更に高い山を目指し登りました。

元の避難所は、波にのまれ、山から町が飲まれる光景を見たそうですが、あの時、更に上に上がらなければ死んでいたと言っていました。

もう一度いいます。

用心に越した事はありません。来ないだろうではなく来ても大丈夫な所に避難するのを最優先してください。

引っ越し先などの慣れない場所でも、避難所の場所高い場所、地震に強そうな場所は最低限チェックしておくといいと思います。

逃げる時の交通手段ですが、自転車も車も乗れないとなると、避難する際も命に関わるほどの重要なものになってきます。

どちらかは必須で乗れるようにしておく事を勧めます。

自転車はガソリンを使う事もなく、車では難しい場所も

スイスイ進み、とても重宝しました。

車だけしか持っていない家庭も、震災に備え自転車購入は強くお勧めしておきたいです。

これは、知人に聞いた話ですが、逃げる際の注意点を更に書きたいと思います。

津波が来ると放送が来た時に、家の貴重品を取りに行つて亡くなった人の話を聞きました。

似たような話で、車を取りに行くと言つて戻つた人がそのまま波に飲まれていった話も聞きました。

震災時は、この位は大丈夫だろうと思つて、不用意に危険地帯に近づかないで下さい。

自然は我々の予測を簡単に裏切り、猛威をふるいます。動画サイトでも見たのですが、津波に近寄つたり逃げたりしない人の姿を見ましたが、この人達は自分の中で、もう大丈夫だろうとか、ここからはこないだろうと、自分で線引きしてしまっています。

読者の皆さんは、用心を忘れないでください。

一番身近な存在だった父も、余震がとまらぬ中でもう津波は来ないだろうと勝手に判断して、沿岸に近寄ろうとしていました。

こういった行動をとっていたのは、私の父も含め高齢者の方がほとんどでしたが、皆さんもくれぐれも気をつけて下さい。

ちなみに父が行こうとしていた地域は、再度津波が襲いあのまま行かせていたら、父の命も危なかったと思います。

それと、人を助けて亡くなった人の話しも沢山聞きました。

知人や老人を助ける事は、人間として、とても有難い事であり、その気持ちは、これからも持ち続けていきたい大事な感情だと思います。

しかし、震災時には、自分の命も危機にさらされてるのを忘れてはいけません。

もし助ける時は、迅速に動ける範囲内で人を助け、かつ逃げる時間も確保できる範囲内が望ましいと思います。

しかし、正直、これを書いている私でも、考えている通りに動ける自信はありません。

大事な人が何人もいて、全員助けたいが、難しい時私ならどうするだろうか。

頭の中はいかに逃げるかではなく、いかに助けるか

で、いっぱいになるのではないかと思います。

しかし、生き残る事を第一に考えるなら、やはり、行動範囲と、逃げる時間も確保できる時間内になるでしょう。

場所によって津波到達時間は違いましたが、地震後5～10分以内にはその場を脱出できる体勢を整えないと、厳しいのではないのでしょうか。

(10分では遅いか？今回は大きな余震があったので、それを踏まえればいけると思うが、助ける時間を考えるのは難しい。)

私の親戚のお婆さんは、多くの老人を救いましたが命を落としてしまいました。

助けられた人が名前を書く用紙があり、お婆の夫の名前がそこには書いてありました。

自分の名前を告げず、夫の名前を告げ何人かの老人を救ったお婆でしたが、遺体で発見された時はなんともいえない複雑な気持ちになりました。

私は、このお婆の行為、そしてお婆そのものの人間性を
一生誇りに思って生きていきたいと思います。

それは、残された子供達も同じ気持ちだと思います。

お婆さん、私からも礼を言わせて下さい。

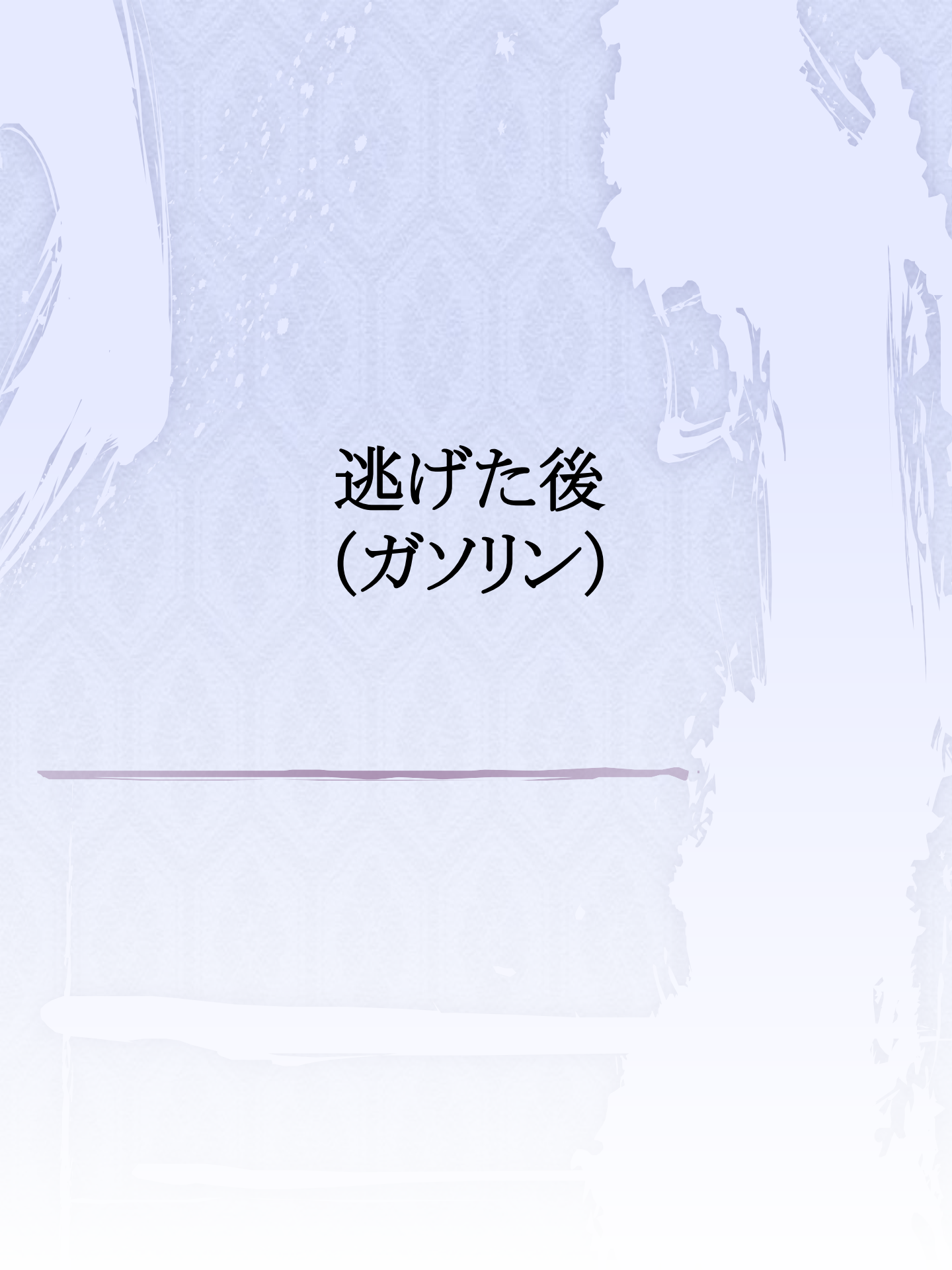
震災の中、多くの人を助けてくれて有難うございましたと。

少し話しがずれてしまいましたが、逃げる時のまとめは

周りが動いていなくても、多少オーバーに見えるくらいでも
いいから、周りに声をかけ、避難する事。

自然は恐ろしい物であり、二次被害などの危険性がなくな
るまで、危ない場所には近寄らない事。

命最優先で、迅速に動くのが必須だと感じました。

A blue-toned illustration of a forest path. The path is a light blue line winding through a darker blue forest. In the distance, a person wearing a hat and carrying a large pack is walking away from the viewer. The overall style is soft and atmospheric.

逃げた後 (ガソリン)

逃げた後、ラジオもなく、情報が入ってなかった状態で

私はこう言いました。

「津波がどこまで来たかもわからないし、山の下に行けるかもわからない。今日は車で一泊し、情報収集して安全だとわかれば下に行く。しかし、わからなければ、安全が確保されるまで山にいる。津波が再度来ないという確証が得られるまで、山から下りてはいけない。ガソリンもいつ手に入るかわからないから、寒い中でもエンジンは切るぞ。再度逃げる時や、病人が出た時などの緊急時用にガソリンを残し、無駄に消費してはならない」

車から降り、山頂から町を見ると、炎が上がり、町は波で破壊しつくされていました。

そして、同じく避難している車を数台見ると、エンジンを

つけっぱなしにして寝ている車が多いのに気付きました。

この光景は、車で寝泊まりした2日間見る事になるのです

が、寒いとの理由で、ずううううううとエンジンをつけっぱ

なしにしている車を何台か見ました。

その車は後日、山から動けなくなり、乗り捨てられていたの

ですが、被災時には、救急車も呼べなくなるため、ガソリンはとても貴重なものになります。

しかし、逃げた後に多く見た光景は、エンジンつけっぱなし（雪がふっていたので仕方がないが、ふってない朝は我慢できたのではないだろうか）

そして、震災後の様子を見るために、動こうとする人達です。様子を見に行っても、～だった、とか、家がどうだったとかの感想ばかりでした。

ここで得た教訓は

前項とダブりますが、二次災害の危険性があるため、不用意に動かない。

様子見で動くのではなく、見たい気持ちを押し殺し、本当の緊急時に動けるように、ガソリンを残しておく。

これも、私のまわりでの話しになりますが、様子を見るためガソリンを消費し、動けなくなった人を沢山見ました。

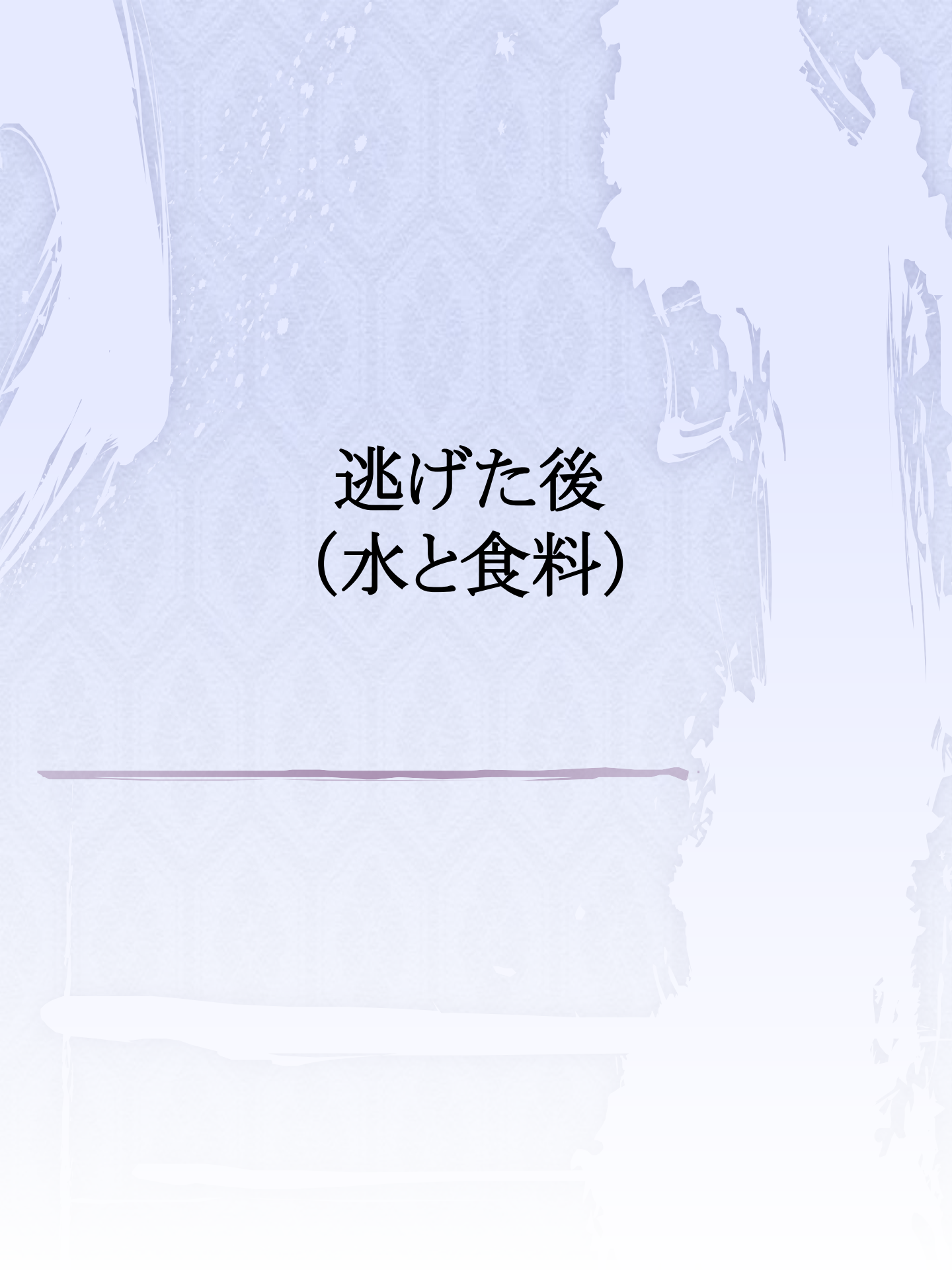
もちろん、安否確認や、行方不明者を探しに行くとかなら

止めません。

しかし、多くの場合は文字通り様子を見たいので、繰り返し車を走らせる人が多かったです。

災害後、どのようになったのか見たい気持ちは大いにわかりますが、**震災時は絶対にガソリンは貴重になります。**

見たい気持ちを押し殺し、大事な時に使うよう心がけてください。

A blue-toned illustration of a forest path. In the center, a person is riding a horse, carrying a large pack on its back. The path is flanked by trees and foliage. The overall style is that of a traditional Japanese ink wash painting, rendered in shades of blue.

逃げた後 (水と食料)

逃げた後、親戚の家に二日程泊まりました。

70歳をこえている父の親戚はとても多く、家がなくなってい

る親戚も多数集まっていたため、一軒に10人近くの人が

集まっていました。そこでの食事の風景ですが、食料は

普通に三食だそうとする。水は飲みたい時に飲む。

今後の事を考えない行動が、そこにはありました。

(これは、他の家でも多数あった意見です。高齢者に多かったと感じますが、みんな説得に苦労したようです。)

ここで得た教訓は

被災時は、普通に三食食べる必要はない。

生きるために必要な、最低限の水と食料のみとれれば良い。

いつ、普通に水と食料がとれるようになるかわからないので
節制を心がけるべきである。

また、それを同居者に徹底させる必要がある。

(被災時、節制は当たり前と思っていたので衝撃でした)

一日に必要な食事量、水分量は年齢や体型によって

違いますが、大事な事は、習慣として3食食べていたのを
生きるために必要な最低限の量に減らすという事です。

お腹がすきすぎて、おかしくなりそう。

のどが渇いてどうにかなりそう。

そんな時はもちろん摂取していいと思います。

しかし、そうでない場合は、我慢する事を心がけましょう。

被災時は、いつ普通の生活に戻れるかわかりません。

このレポートを書いている今でさえ、食料は買えず
ガソリンも手に入らない状態です。

用心に越した事はありません。被災時間が長引いても
大丈夫な心構えをしましょう。

それと、水についてですが、思わぬところで、水の捕獲量の
格差がでていました。その差はなにで生まれていたか。

その原因は容器です。

場所で、水が確保しやすい場所や、そうでない場所があるのは、誰でも容易に想像できますが、容器で差が生まれるのは、あまり想像してなかったのではないのでしょうか。

私は、水を入れるポリタンクを常時2つ持っていたので水の確保には困りませんでした。が、何の容器も持っていない人は、飲み終わったジュース容器などで、汚くないものを選び、水を入れている人もいました。
(水がなく洗えないため、綺麗なものを探す必要がある)

その場合は捕獲量が少なくなるため、今後の生活にも大きく影響していました。

ここで得た教訓は

水を大量に入れられる容器を常備しておく。
できれば持ち運びしやすいポリタンクが望ましいが
ない場合は、衣装ケースなどにゴミ袋をかぶせ大量に
水をくむようにすると良い。

それと、水洗トイレについて。

被災地で多く見られたのが、水洗トイレで用を足し

お風呂の水で大量に流すといった光景や話しをよく聞きました。先ほども述べたように、被災時は水はとても貴重なものになります。それはお風呂の水も同じ事で、この水を使い体を拭いたり、どうしても水がない場合の緊急用として私はとっていました。

ここでの教訓は

トイレのたびに大量の水を使っていれば、流すための水すら探すようになる。(実際多数目撃しています)

近くに川などがあり、簡単に確保できる場合は水で流しても良いが、簡単に水が確保できない環境にある場合、トイレは新聞紙や袋などにためて、後で捨てるようにすると良い。

小は水洗トイレにたまっても、大きな害はなかったのですが、神経質になる必要はないと感じたが、大は、水洗トイレにためず、水を使わない工夫をしてすべきである。

食料と水のまとめとしては、無駄使いしない工夫をする。

この言葉が全てだと思います。

また、トイレで使うティッシュ類も、震災時には中々手に入らず貴重な物になります。私は、はなをかむ時は、布をハサミで切ったものをずっと使っていました。

数日使ったのですが不思議な事に汚れはほとんど目立たず、何一つ不便に感じなかったなので、お勧めしておきます。

ティッシュ類も震災時には貴重になるので、日常的に数個買いだめしておくと感じました。

それと、袋類やサランラップもとても役に立ちます。

サランラップを皿にしけば、洗わず捨てるだけで済み袋は、トイレや食料の小分けなど、大いに活躍しました。

ビニール袋やサランラップ類も、買いそろえておけば

震災時の水の節約につながるため、お勧めしておきます。

次に、食料を買い出しにいった時の事を書きます。

震災後、数店の店が臨時で開店し、販売をしていました。

ここでは電子機器が使えないので、100円で5点買えるといったシステムだったのですが、ここで缶コーヒー5個や歯ブラシ5個、お菓子5個、たばこ十何かといった買い物をしている人を見ました。これを見た時、彼らはこれからの生活を考えているのではなく、今欲しい物、我慢できないものを発作的に買っていると感じました。

被災後、落ち着いたのなら、このような買い物もいいでしょう。しかし、被災時に重視すべきものは、今後生き残るために必要な物を買う事です。

私は、常温で長期保存が可能で、栄養バランスも良く、量も多かったコーンフレークと、同じく常温で長期保存が可能で量が多かった豆乳を買いました。

ここで得た教訓は

買いものは、今後生き残るために必要なものを重視して買うようにする。

具体的には、常温で長期保存が可能な食品と、水分の確保を重点的に行うようにする。

本能に任せて買いものをしないようにする。

被災時といつもの日常は違う事を頭に入れ、歯磨きや喫煙などの行動も、しばらくは我慢する心構えも必要である。

常温で長期保存できるものを、日常的に家に置いておくと震災時にとても助かるので、常備するようになると良いと感じました。

食料確保時は、多くの人が列をつくりますが、取り乱さずマナーを大事にする心は、震災時に色々な面で役に立ちます。

多くの人がマナーを守らなければ、場が混乱し、食料も平等にいきわたらないでしょう。

マナーがなければ街も混乱し、出歩く事すら難しくなってしまう。

震災時こそいつも以上にマナーを守ろうとする気持ちが、結果として自分を救う事になります。どうか震災時は思いやり、マナーの気持ちを忘れないようにしてください。

水と食料とガゾリンまとめ

水も食料もガolinも、無駄使いせず、全てのベクトルを自分や、自分の周りの人を生き残らせるために使う事が大事だと思いますが、意外な事に、この意見を簡単に受け入れてくれる人は、少なかったです。

どれもそのうち回復するだろうとか、楽観的に考えていたり逆に、深刻に考え過ぎて、何が何でも行動したり、様子を見たくてそわそわしてる人などがいました。

私の父も、震災の次の日に、崩壊して道もない所に行こうとしました。親戚がどうなってるかわからないから見てくる！

その気持ちは大いにわかっていたのですが、二次被害やガolinも確保できない、携帯も繋がらない状態でおいそれと行かせるわけにも行きません。

言葉で説明しても中々納得してもらえず、他にも同じような行動をとろうとしていた人が何人もいたので、私はどうにか

現状をわかってもらおうと、今後の行動指針や、今の状況などを、図に書いて説明しました。

皆さんがもし被災した時も、もしかしたら、被災時の行動に納得いかず、本能に任せて行動する人がいるかもしれません。

その時は、図を書くと、納得具合が違くなるかもしれませんので、載せておきます。

ここで私が重視したのは、今の状況、無駄使いしたらどうなるか、今度の指針。この三点を重視して書きました。

次のページに添付してありますので、良かったら参考にしてください。

それと、ここにうまく貼る事のできなかった、震災時に必要と感じた日用品をブログにまとめました。

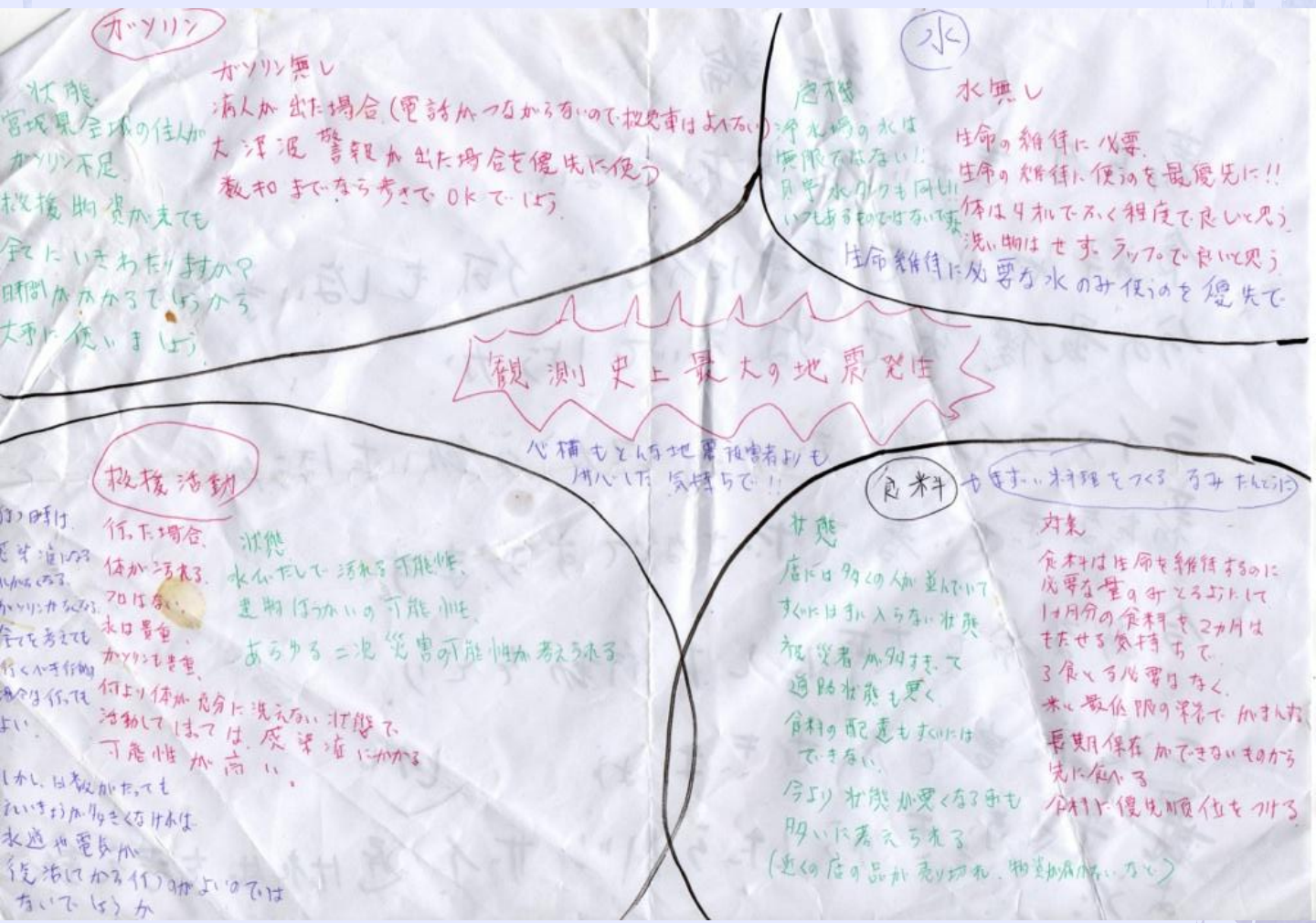
よろしければ一読お願いいたします。

<http://ameblo.jp/ganbare dameomajide/theme-10034774150.html>

(ナポレオンヒルを読んだ、だめ男の逆襲？日記)

言葉で説得できなかつた人も、図を見たら納得してくれました。

老人達でも理解しやすく、見やすいよう色分けすると思います。



食料番外編 (オカルト?)

被災後、1週間くらいは、私は1日1杯のプロテイン入りコーヒーで過ごしていました。

普通なら空腹でどうにかなる量だと思いますが、実は空腹感はほとんど感じませんでした。

ここで役立った技術？を、記載しておこうと思いますが、これを見て、信用する人はほとんどいないと思います。

なぜならこの技術を極めると、水も食料もいらなくなるから。

その技術は何かといいますと、ブレサリアンの技術です。

ブレサリアンになる方法は多数あるようで、書籍も何冊か
でています。

ブレサリアン、不食関係で有名な本を紹介しておきますが、興味があればご愛読ください。

リビング・オン・ライト—あなたもプレーナで生きられる

```
<iframe src="http://rcm-  
jp.amazon.co.jp/e/cm?t=akimon-  
22&o=9&p=8&l=as1&asins=493144945X&IS1=1&ref=tf_t  
il&fc1=000000&lt1=_top&m=amazon&lc1=0000FF&bc1=F  
FFFFFF&bg1=FFFFFF&f=ifr"  
style="width:120px;height:240px;" scrolling="no"  
marginwidth="0" marginheight="0"
```

人は食べなくても生きられる

```
<iframe src="http://rcm-  
jp.amazon.co.jp/e/cm?t=akimon-  
22&o=9&p=8&l=as1&asins=4883203050&IS1=1&ref=tf_t  
il&fc1=000000&lt1=_top&m=amazon&lc1=0000FF&bc1=F  
FFFFFF&bg1=FFFFFF&f=ifr"  
style="width:120px;height:240px;" scrolling="no"  
marginwidth="0" marginheight="0"
```

「食べること、やめました」—1日青汁1杯だけで元気に13年

```
<iframe src="http://rcm-  
jp.amazon.co.jp/e/cm?t=akimon-  
22&o=9&p=8&l=as1&asins=4837670903&IS1=1&ref=tf_t  
il&fc1=000000&lt1=_top&m=amazon&lc1=0000FF&bc1=F  
FFFFFF&bg1=FFFFFF&f=ifr"  
style="width:120px;height:240px;" scrolling="no"  
marginwidth="0" marginheight="0"
```

(リンクがうまく貼れてない可能性が高いです見れない場合はこちらから)

<http://ameblo.jp/ganbare dameomajide/theme-10034774150.html>

(先ほど紹介した私のブログです。)

私は元来大食いで、食べる事が大好きなため、今後も不食を本格的に目指すつもりはありませんが、人の潜在能力などに興味があり、個人的に色々調べた結果、たどりついたものの一つが、ブレサリアンでした。

方法は色々あるようですが、私が一番簡単だと思ったものを紹介しておきます。

日の出一時間以内の太陽を、見つめるようにする。

昼間は目を傷めるので、絶対に見てはいけない。

見つめている時にリラックスして、太陽エネルギーが体内を循環し、エネルギーにあるれるイメージをする。

息をゆっくりとするようにし、吸う時はエネルギーが入り

吐く時は体に悪い物がでる事を意識するようにする。

これを数日続けていると、うまくいくと腹が減らなくなってきて太陽の光を浴びたくなるようになる。

色々な方法があるが大事なのは食事を減らす事ではない。

まずは太陽エネルギーを取り込む事を覚える事だ。

見つめる時間帯は大体30分位を目安にしている。

朝日程ではないが、日没一時間前の太陽を見るのもそれなりに効果があるのでお勧めしておく。

確かこのような記述だったと思いますが、これを見てから太陽凝視を習慣化させていました。

朝日をあびるのはとても気持ち良かったし、朝日を浴びる

のは、朝の眠気をとばし、頭を冴えさせるのにもとても良

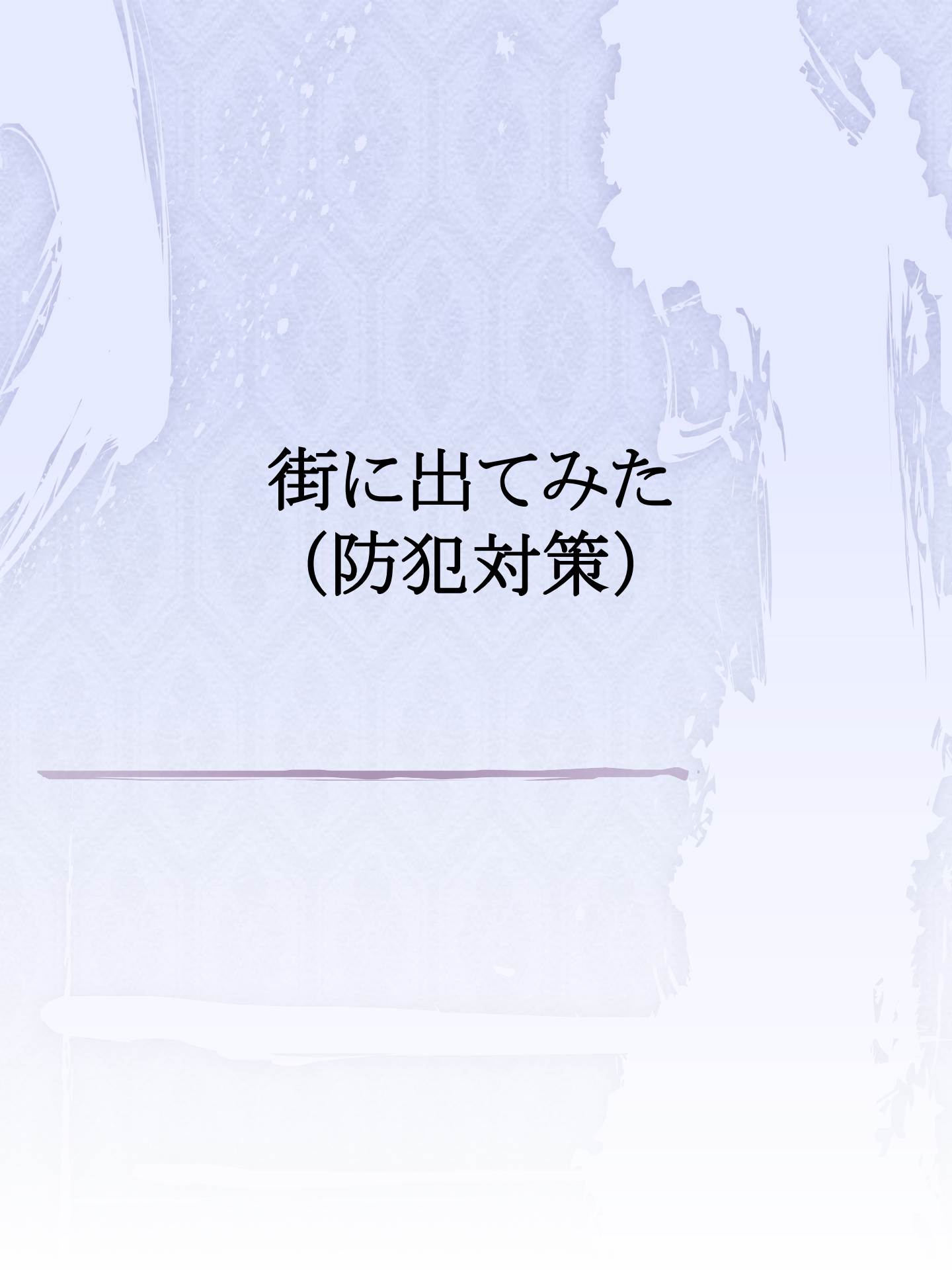
かったのですが、空腹を感じない時でも、食事でストレス発

散をしていたため、私の食事量が減る事はありませんでした。

しかし、今回の震災時に、今までの事を試す機会が来たと感じ、朝日を見つめ、空腹を抑える事が出来ました。

マインドコントロール、気持ちの問題も大いにあると思いますが、空腹が辛くなかったのは事実です。

これを機に、本格的にといきたいところですが、大好きな食への未練は捨てられず、復興したら、中華料理をたらふく食べるぞ！と妄想している私には、とても達成できそうもありませんが、もし興味がある人がいましたら、是非お勧めしたい技術？です。

A blue-tinted photograph of a street scene. In the background, a person is walking away from the camera. The street is lined with trees and buildings. The overall atmosphere is calm and quiet.

街に出てみた (防犯対策)

津波の心配もなくなり、街に出ると、家は軒並み倒れていて
おそらく死体が包まれているであろう、ブルーシートが目につきました。

夜になると何の明かりもなく、サイレンの音だけが響きます。

その時に強く感じたのが、防犯対策です。

明かりが全くなく、ガラスが割れている店舗があると、良心がない人達は、泥棒に入っていたようです。

直接目撃はしませんでした。ガラスが割れてるし、盗み時だと言っていた人を見かけました。

盗みをした事がない私でも、夜の静寂の中街を歩くと、これ簡単に入れるよな？といった気持ちになるほど。

しかし、犯人が入りにくいだろうと思う店舗はすぐにわかりました。それは明かりがある店舗です。

身動きがとりやすい環境にいたのか、使命感が強かったのかわかりませんが、店主は懐中電灯の明かりを頼りに

店舗に寝泊まりをしていました。

もし、身動きが取れるのであれば、自分の店を持っている人は、店舗の仲間と数人で当番制にして泊まるのが防犯対策としては望ましいと感じましたが、大抵店主も被災者の一員になっているため、それも難しいのではないかと思います。

そこで防犯対策提案

被災時は、懐中電灯だけでもいいから、明かりを灯しておくようにする。店には、店主がいますと張り紙を貼り、防犯用に日常会話などを録音しておき、それを流し続けると良いのではないのでしょうか。

どちらも数日間続くとなると電池が大量に必要なため店主は、電池を大量に常備しておく事をわすれないようにする。

震災時は、普通の人ですら盗人になってしまう恐ろしい環境です。

それを頭にいれ、動ける時は迅速に店舗に向かったほうがよいでしょう。(もちろん人命最優先で、本当に動ける時)

街に出てみた (資産運用)

街を見ていると、軒並み全壊だらけ。

更にここまで広範囲の地震になるとは、誰も予想してなかったと思います。

街をフラフラと見ていてふと思ったのですが、今回の震災で資産運用に失敗して、とんでもない事になった人が多数いるのではないかという事です。

私がよぎったのは、FX、株などの投資、不動産管理などのマイナスについて。

不動産や投資に関しては素人ですが、資産の一点集中の恐ろしさ、リスク分散の大事さを再確認しました。

投資は余裕資金でやり、リスク分散は徹底するべきでこのような不意の災害があった場合には、全てもっていかれるどころか、マイナスになる可能性も大いに秘めています。

リスク分散は絶対にすべきと感じました。

それと不動産投資についてですが、不動産は自分が管理する場合と委託業者に任せる場合があると思いますが

管理のしやすさから、どうしても自分が住んでいる所メインで、物件を探してしまうのではないのでしょうか。

不動産の場合は、管理する地区の一点集中を避けたほうがいいと感じました。

私の住む地域に何件もアパートをたてていれば、その全てが、全壊していた可能性もあります。

しかし、東日本、西日本などとわけて運用した場合、今回の場合に限っては、人の流動性にも対応でき、リスク分散もいい具合にできたのではないのでしょうか。

委託必須になるとは思いますが、何にしても一点集中は
さけ、リスク分散管理をしなければと思った出来事でした。

また、この考えは、東京にあらゆる機能が一点集中してる
事の危険性にも、そのまま当てはまる事だと思います。

東北で地震が起きたのに、影響は東京、その他の地域に

飛び火していきました。

被災地と関係のない場所でのガソリン、保存食、水不足。

もし、東京で大地震が起きたら、その影響は日本全土のみならず、世界にもあつという間に飛び火するはずです。

昔と違い、今は通信手段が発達していて、会議もリアルタイムで遠隔地とする事が出来ますし、文章もメールで即送れます。

大事な人と直接あってビジネスの話しをする、最新の情報を手に入れるには、東京が一番便利な場所だと思いますが、日本経済、防災を考えると、一点集中はもろすぎます。

文字道理、一網打尽になりかねません。

東京に集中している機能を、他の地域にも分散し、分散先での、新たな経済の活性剤になれば、リスク分散&他地域も発展と、良い事が多いと感じます。

日本が地震大国である以上、東京直下型の地震が起きないとは言えません。

今回の震災は、首都機能の分散管理についても考えさせられるものでした。

街に出てみた数日後
(ビジネスチャンス)

今回の地震は、津波による被害が大きく、家は全壊だったり半壊だったりですが、もう一つ、特徴的な震災事例があります。

一階のみ浸水。それもただの水が入ったのではなく、ヘドロのようなものを大量に巻き込んだ浸水です。

家の中はヘドロだらけで、スコップなどをかきだしてますがその後の汚れもかなりひどく、一筋縄ではいきません。

ここがビジネスチャンスです。

業務用の掃除機器のレンタル業務、もしくは販売業が期間限定で儲かる可能性があります。

具体的には、ドロ汚れも綺麗に取れる機器で、広範囲を綺麗にできる機械が喜ばれるでしょう。

また、物やヘドロが道路や個人の庭にも散乱しているため、人によっては、レンタルの重機を喜んで借りる人が出てくると思います。

これを宣伝する事により、レンタル業者は儲かる。

そして、被災地は早く綺麗になるといった相乗効果を

狙っているのですが、安易でしたでしょうか。

元々営業力のある方がレンタルの話しをすれば

儲けの確率は更に上がると思いますので、興味が

ある方は是非お越してください。

それと、家の汚れがとんでも無さ過ぎて、いつまでたっても

綺麗にならず、心が折れている人が多数発生しています。

ヘドロをとっても、家の中は臭く、水で流す作業もしているた

め、家は相当痛んでいます。

リフォーム業者もチャンスですが、外観だけでは家の中が

汚くなっているかわからないため、訪問販売をお勧めします。

しかし、状況は刻一刻と変わっているため、数ヵ月後では

自力で綺麗にされる可能性が高いため、状況確認後

早めの行動でよろしくお願いいたします。

街に出てみた数日後 (ボランティア活動)

ビジネスチャンスともかぶるのですが、現在、食料や水、その他の物資が届き、被災地の者として、感謝の気持ちで一杯です。

ボランティア活動は、日に日に現地の要求が変わり、そのズレのせいで、大変な思いをする人がいると聞きましたので、現在必要とされている、そしてこれからも変わらず要求されるであろうニーズを書きます。

それは、がれきの除去と、一階部分が浸水した家などの掃除です。

これを書こうと思ったきっかけは、自分が日々この活動をしており、とても大変な作業だと感じているため、安易な気持ちでボランティアに来て、掃除などを頼まれた時に、こんなはずじゃなかったのに(涙)と思う人を減らす事ができたら
との考えからです。

全く関係のない地域の人に頼むには、汚れもひどくなるし
完全な肉体労働だし、簡単な作業ではないと感じます。

しかし、1人暮らしの老人などは、家の掃除もできない状況
ですし、もし、ボランティアの方がくれば、とても喜んでく
れるでしょう。

しかし、今はガズリンもなく、食料も満足にないので、県外か
らのボランティアの方は、安易に来ないほうがいいと思いま
す。

助けようとしてくれたその気持ちだけでも、私達は胸が温か
くなり、感謝の気持ちで満たされますし、不満に感じたりは
しません。

繰り返しになりますが、逆にこのような時に、色々な支援の
輪が広がり、支援物資が届いてる現状に、感謝の気持ちで
溢れております。

皆さま、本当に有難うございます。

被災した人達と国の対応
そして、私からの提案
この思いが国を動かす
原動力になればと願う

(自分の中のメインページ)

私の家は、幸い浸水もなく、家に大きな被害もありませんでしたが、1キロ先は地獄絵図になっています。

津波で壊れた家屋、ヘドロのようなものがあふれ、濡れている道路や家屋。

私は、これを何としても、早く復興させたい。

私の地域、そして日本の復興、成長の歩みを止めたくない。

早く、効率的に、効果的に、そして安く復興できないか。

その案が浮かんだので、ここに記します。

これは私個人のアイデアですが、正しければ、本当に効果があると判断されれば、国も動くものと考えております。

それではその方法を記します。

まず、現在の状態ですが、家を失った人は避難所、または親戚や知人の家に身を寄せ、途方にくれ、暮らしている状態です。

しかし、長引く避難所生活で精神的に参っている人が多いと感じますが、体のほうは五体満足で怪我もなく、充分に動ける、働ける人が沢山います。

そんな彼らの多くは、家もない、動きたくても、復興の手助けをしたくても、そのすべすらない状態です。

私はここに目をつけました。

復興の提案

がれき除去などを、自衛隊や専門家だけに任せるのではなく、被災した本人達にもやってもらう。

そのための教育として、アメリカ特殊部隊グリーンベレーのように、専門家が現地の人を教育し、教育された人が次々と増えて、現地で動ける人を多くするようにする。
(無差別に合格させるのではなく、人材の見極め審査はきちんとするべきなのを忘れてはいけない)

がれきの除去には様々な乗り物、重機が必要となるが、震災時は免許を免除とし、教育を受けた人が動かせる特例を設けるようにする。

小型重機などで専門性が低いと判断されるものは、同じく特例として高校生など、年齢制限も下げて動かせるようにする。

重機のレンタルや、無料の貸しだしも復興活動の一環に取り入れ、ボランティアの人も教育を受けれるようにする。

これは、宇宙を探索する場合、超高性能の機械一機より活動範囲は狭く、性能も低いですが、自己増殖する事ができる機械を作るほうが、早く効率的に宇宙を探索できる理論を元に考えつきました。

被災者は全く動けない人ではありません。
動きたくても動けない、動く方向性すらなくしてしまってる状態で、動く事はできます。

そして多くの被災者は、自分の土地に住む事を望んでいます。

私の地域に限って言えば、がれきが散乱し、へドロだらけになっているが、へドロの除去には小型ブルドーザーが大いに役に立ちそうで、これを人力で行った場合は、復興までの時間が大幅に増えると感じますし、がれきも二階だての建物を壊すとかなら、専門性は高いと思いますが、身長位に積まれたがれきの山が多数あるので、これを除去するだけ

でも、大いに役に立つと感じます。

提案をまとめます。

被災時には、被災者も専門的な復興活動ができるようにする。

(数万人がそのまま労働者になったら復興も早まるはず)

その為の教育をする人材、もしくは機関を国で設置する。

重機のレンタル、国からの無料貸し出しなども復興活動に入れるようにする。

(この意見が通れば、重機会社は震災時に需要が増え震災にも強い投資先となるため、資産運用にもいいと思います)

復興に使う機器は、ものによって年齢制限も下げて使う事を可能とし、免許ではなく、教育でも使えるようにする。

復興活動拠点を作り、そこにも避難所を作れば、生活物資に困らず、復興活動までできる。

場合により、それを雇用に転換すれば、そのまま被災者の生活費も捻出でき、地域の雇用も潤う。

主導者が(ここは国が良いか)危険個所を見極め、人員の動かし方を決める。

危険個所や、作業の難易度は、レベルわけすると、その後の振り分けがしやすいと思うので、マニュアル作成もしておく。

これは私の個人的な意見ですが、被災時にリーダーを選出する場合は、どならず、怒らず、人を上手に動かせる人を採用すると、周りの人のやる気も変わると思いますので人間性の査定も大事だと感じます。

Dカーネギー著、人を動かすにありましたが、怒鳴られて教育された犬、誉められて教育された犬。

覚えが早いのは、誉められたほうで、人間にもそのまま当てはまるそうです。

何やってだコラ！など日常的にどなられる
→このやろう今に見てろよ。。。

と、憎しみの心でやる気がともっているのと

今度はそういったミスはしないように、一緒に頑張っていこうドンマイと言われ、怒鳴られるのではなく、改善点を言われるのでは、やる気が全く違います。

人は憎しみでも動きますが、一番の原動力は愛や思いやりを感じ、その気持ちに答えようと思った時だと思います。

震災時は、誰もが落ち込み、人によってはいら立っている状態です。

そこで罵声がとびかったら、あっという間に、大きな争いに発展するのではないのでしょうか。

震災時の人の動かし方は、いつもと違い、より丁寧に怒鳴るよりも、励ましを多くするのが大事だと思いました。

少し脱線してしまいましたが、提案を続けます。

上の提案が、仮に通ったとしても震災時は簡単に動く事ができません。

なぜなら、がれきを置く場所がない、焼却場の能力がおい
つかず、燃やす場所もないからです。

そこで復興の手順として

1 緊急時にがれきを置く場所を自治体事に決めておき、場合によっては各自治体で焼却処分もできるようにする。
(焼却の教育必須)今の東北には特に必要だと感じます。

ゴミの場所は燃えるごみ、燃えないゴミ、家電のそれぞれの

場所を決めておく。

2 決められた場所に、訓練された被災者が次々と運ぶようにし、後片付けも順次行うようにする。特にこの作業を早くするよう、集中して人員を投入するようにする。

3 安全が確保され、片づけられた場所に、仮設住宅を建てる(地元を離れたくない心情を考慮)

4 復興活動、支援物資の仕分けなども、被災者で行えるよう教育する。

私が考えた大まかな流れはこうですが、3で更に提案があります。

提案

被災者達で作れる仮設住宅を、日本の有能なメーカーさんで考えてもらえないでしょうか。

仮設住宅を建てるのは、とても大変なもので費用も時間もかかり、結果として、復興の遅れ、日本経済の停滞も招きかねません。

しかし、自分達で作れる簡易型仮設住宅があれば

その分復興を早める事ができます。

グリーンベレー作戦同様、専門家の指導の元、作る事ができ、再利用、もしくは廃棄しやく、安価で小型な住宅が、被災地に向いていると思いますが、設計は難しいでしょうか？

私は、この提案は不可能だとは感じません。

これは住宅メーカーにとっては、新しいビジネスチャンスでもあります。

この提案にそった商品を作る事ができれば、この分野では独占できるチャンスだからです。

建設業は、仮設住宅以外でも受注が増えるため、対応が追いついてないので、建設業界の需要を大きく減らす提案でもないと思っていますがいかがでしょうか。

個人的には、ニコニコ動画のお気に入りにも登録している

株式会社ジャパンドームハウスに期待しています。
(個人的な意見ですみません。なぜか気になる好きな家です)

<http://www.nicovideo.jp/watch/sm4645737>

動画はこちら

現段階で、安い、早い、丈夫、安全を満たした住宅を作っている、ドームハウス社員の、素晴らしい眼力、発想力を
持っていれば、いつの日か可能になると信じています。

被災者が、自分で建てれる住宅の設計をどうかお願いいたします。

この提案についても、メーカーだけではなく国も動く事が
必須になりますが、絶対に叶うと思いたいです。

私が提案したいくつかの意見は、いつか来る事が予想されている、東京の大地震にもそのまま応用できるものだからです。

田舎でも、これだけのがれきに溢れ、身動きがとれなくなっているのに、これが都会で起きたらどうでしょうか。

がれきの除去だけでも、大変な作業になり、そのがれきがない事には、物資の輸送すらままならない状況に

なってしまいます。

これを、都民の中で教育する事ができれば、がれき除去作業をしながら、がれきの下にうまっている人を助ける救助活動も同時にする事もでき、まさに一石二鳥になるわけです。

人口の多さを、被災者の多さとしてとらえるのではなく、救援隊が増えると考えたら、もし地震が起きた時も、今以上に迅速に動く事が可能になるでしょう。

また、全国の物流業界などが被災地に一気に集結してがれき除去などの救援活動をすれば、作業は益々早まるでしょう。(そのシステムの構築も必要ですが)

また、被災時にそういった救済活動ができるようにする資格を作ると、一般からの注目度も変わると思います。

この提案が通れば、復興時の国の負担も減り、復興までの時間も短縮できると、1人よがりですが考えていますがどうでしょうか。

何の取り柄もない私の提案ですが、いつか国を動かす力になり、しいてはまだ被災していない皆さんの、もしもの時のための力になれるものでしたでしょうか。

一般的な意見ではなく、全て私が必要と思ったものや体験ばかりでしたが、少しでも、皆さんの力になれば幸いです。

私のレポートは以上になりますが、もしよければ私のレポートに、もう少しだけつきあってもらってもよろしいでしょうか。

今回の災害で、私の尊敬してる従兄弟の家がある地域が、高さ10メートル以上の高波にのまれ、街の建物は、ほとんどの家が全壊していました。

現在ニュースなどではほとんど報道されていない地域ですが、見た光景は絶句そのもの。

数枚を携帯の写メに収めたので次のページに載せておきます。



1



2



3

- 1 街のほとんどの建物が崩壊しています
- 2 少し離れた地域ですが、屋根の上に船が乗っています
- 3 見えにくいですが、二階建ての建物の上にバスが乗っています

親戚の家に行く途中、このような光景を見て、きっと親戚の家もこうなっているだろうと、覚悟して運転していました。

親戚の家は、その地域の奥のほうにあるのですが、やはりどこを走っても、同じような光景。

しかし、ある距離に行くと、その家の存在がすぐにわかりました。

二階まで残ってるあの家が親戚の家だ！と。

隣の家は、跡形もなくなりコンクリートの土台のみとなっている中、この家の丈夫さには驚かされ、同時に感謝の気持ちであふれました。

私の尊敬する従兄弟は数年前に不慮の事故で亡くなっており、震災でお墓もわからなくなっていたので、遺影も何もかも流されるのを覚悟していたのですが、遺影もその他の遺留品も無事回収する事が出来ました。

私はこの住宅を、この地域の最強住宅と心で唱え、感謝の気持ちで一杯になったのですが、この住宅を作ってくださったアヴィエスホームの皆様には、この場で感謝の気持ちを伝えると同時に、感謝の気持ちを込めて、ここで宣伝しようと思います。

デザイン性も優れ、更に大地震にも津波にも耐えた頑丈さ。そんな家の中にあっただからこそ、何にもかえがたい思い出の品を無事回収する事ができました。

社員の皆様の丁寧な仕事ぶりには感謝の気持ちで一杯です。

アヴィエスホームはこれからも、丈夫で素敵な住宅を作ってくれると信じてますし、私も次に新築を建てるなら、迷うことなくアヴィエスホームを選びます。

アヴィエスホームの皆さま、本当に有難うございました。

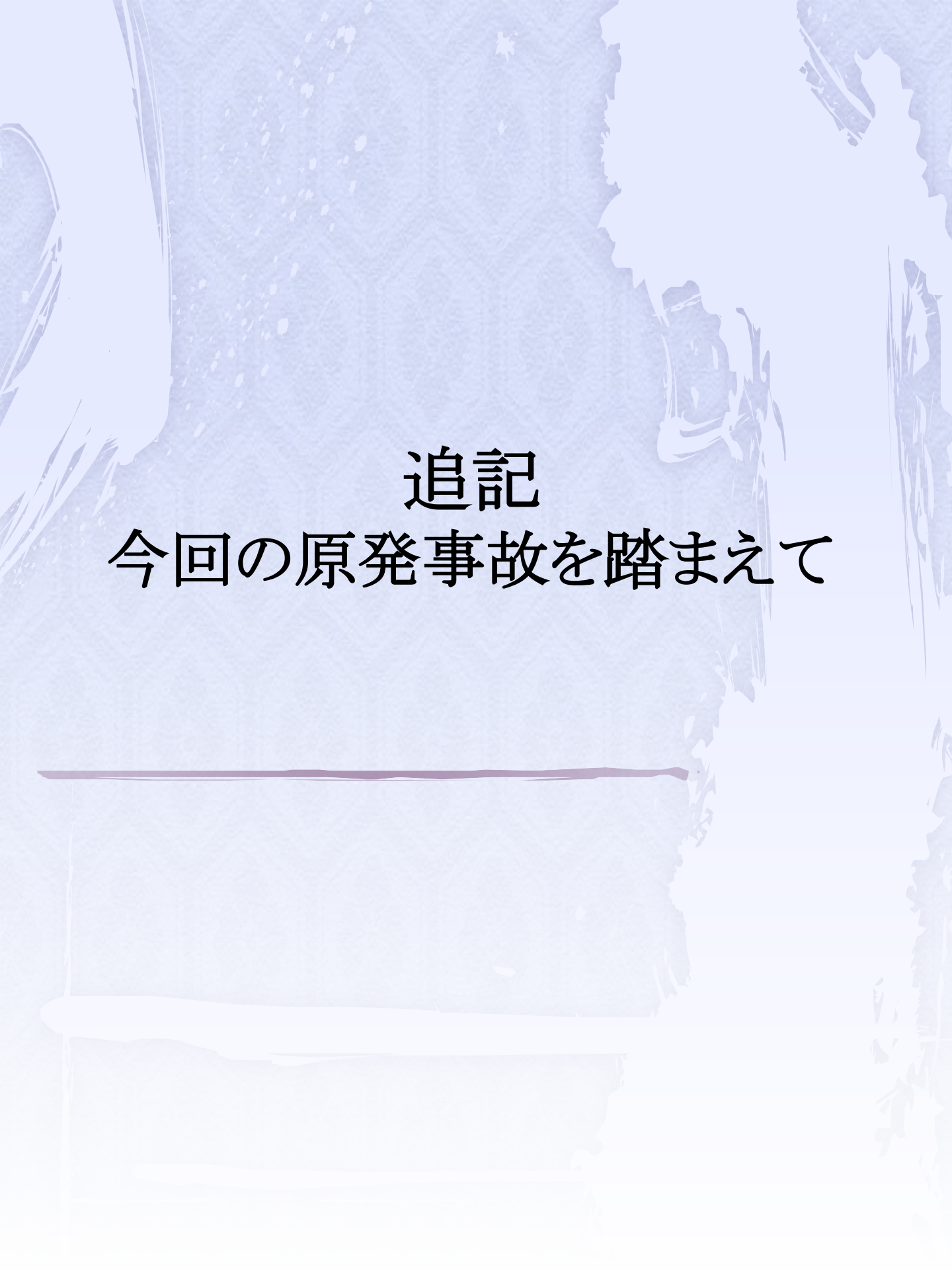
あれだけの地震と津波にあてられ、あそこまで姿を残し
家の宝を守ってくれた技術、丁寧に作ってくれた気持ちに
感謝をし、このレポートを終わりにしたいと思います。

その家の写真ですが、壊れている周りの家の人の気持ちを
考えると、この中で親戚の家だけが無事でした！と写真を
載せる気持ちにはなれず、掲載しませんでした。

しかし、津波にも負けなかったあの家は、へこたれない家と
して、色々ご利益があるような気がします。

もし何かの機会でまた行く事があれば、感謝の気持ちを込
めて、家の前でお祈りでもしようかな。

(※遺留品の回収が終わり、3/27から取り壊しが始まってい
ますので、現在は外観がだいぶ変わってます。)



追記

今回の原発事故を踏まえて

私は原発の仕組みは、全く理解していません。

どのように動くか、発電しているか説明してと言われたら核反応によって生じる熱で、水蒸気を発生させて、その水蒸気で発電させる。

そして、この答えがあつてるかもわからない程、無知な存在であります。

しかし、今回の出来事で、原発について確信を持って言える事があります。

それは、地震大国日本に原発はいらないとの認識です。

今回の出来事は、原発が危険である確固たる証拠になったのではないのでしょうか。

安全と偽り、発電のために作られた原発は、地震と津波により、危機的状況に陥り、我々日本人の生活をおびやかす存在に変わりました。

これは福島県だけの問題ではなく、日本全体に関わる問題です。

風が吹けば桶屋が儲かる理論のように、様々な所で影響しあい、負の連鎖が続いていきかねない問題であり、現地では既に多数の深刻な問題が発生している状態です。

終息のメドは立っておらず、終息しても土地は長い間使う事が出来ないものとなるのではないのでしょうか。

地震大国日本は、今回の出来事を機に、原発をやるべきであり、それに代わる発電システムの構築、研究を早期に始めるべきだと思います。

原発なくなったら、電気使えなくなるだろうがゴラァと聞こえて来そうですが、国が原発を停止するので、節電に協力して下さいと本気で言って来たら、この惨劇を見た後に反対する人はいないでしょうし、私は原発がなくなるなら、計画停電も大賛成です。

今回の震災は、地震発生時に原発も破壊されるといった教訓を残しましたが、災害補償について国や企業の負担は大きくなりすぎます。

原発が生む大きな金銭的利益、電気の力よりも、国民は安全を欲しています。

被災地ど真ん中にいた私ですら、地震の事より、遠くの原発のほうが気になった程、原発事故は恐ろしく感じました。

この声が大きくなり、原発廃止、それに代わる発電システムの構築が進む事を祈っております。

福島で自主避難を促された住民は、行く手段もない人がいるかもしれない。

原発問題で、国や企業が保証しきれない問題が多数発生している今の状態だからこそ、早急に原発停止の動きに繋がればと考えるしだいであります。

個人的には、太陽光発電と、太陽熱発電に期待です。

太陽熱発電は、現在、あるのかわかりませんが、この力をタービンを動かす力に変えるのは、可能な技術ではないでしょうか。

<http://www.nicovideo.jp/watch/sm5045450>

他、地熱、波力、風力、バイオマス、メタンハイドレートなどのエネルギーを使い、これらのエネルギーを実用化すれば逆に環境先進国になれるチャンスだとも思います。

日本には、その技術を作っていく力があるはずです。

また、原発収束問題に関してですが、これが収束しない事には、日本の復興はないと感じます。

輸出大国日本が、海外から物を買ってもらえなくなり、食料輸入大国日本が飢えていく事も、夢物語ではないはずです。

東電関係者が現地で対応をしていますが、必死の努力をしているのはわかりますが、正直、この人達に任せて大丈夫なのか？

と、思うようなところが多すぎて、原発問題の先行きが不安になります。

こんな時だからこそ

多くの日本企業、政府、そして、世界各国の力を借りて
一丸となり、原発収束問題に集中するべきではないでしょう
か？

現在も、力を借りようとしているよりは、隠そうとしている姿が
目立つような気がいたします。

しかし、この問題に日本国中の企業が取り組めば、今よりも
人員は増えるはずです。

そして、指揮命令系統が変われば、透明度も変わり、国民
の対応も変わるでしょう。

そこに悲劇的な結果が見えて逃げ出す人がいても、次はそ
れを収束するために頑張る人達も、でてくるはずです。

私が住んでいる地域は、原発から100キロ以上離れていま
すが、それでも全然安心できる距離ではないと思います。

正直、徐々に被ばくもしているんだらうなと頭をよぎる事も
多々あります。

しかし、そういった考えがよぎるのは、私だけではなく、今やほとんどの日本人がそうになっているのではないのでしょうか。

遠くに逃げたくても逃げれない人もいる。

日本を愛しているから離れない人だっている。

離れない事情は人それぞれでも、日本をよくしたい気持ちは、みんな変わらないはずです。

私も、どうせこれから被ばくしていくのなら、次の世代が被ばくしない、そして、きちんと経済復興している日本を作り、バトタッチしていくのが私の役目だと思っています。

そのためには、日本企業、そして協力してくれる同盟国が一丸となって原発問題に取り組むべきではないのでしょうか。

この問題をこれ以上悪化しないように収束できれば

日本の技術力、団結力のアピールにもなり、弱り切った

日本国民の士気もあがるかもしれません。

しかし、死と隣合わせの業務のため、日本企業が一体化したとしても、人が集まらないといった問題があるかと思えます。

そこで提案です。

日本中の企業、同盟各国が一体となり、原発問題に取り組むようにし、技術力、人員の面でも協力する。

そして、危険な現地に行って作業をする人には、給料などの待遇とは別に、勲章などを与え、石碑などに国の英雄として名を残すようにしてはどうでしょうか。

これは、人が動く時はお金のため、愛のため、名誉のためなどがあり、ナポレオンは勲章で国を動かしたと聞いたのを元に考えつきました。

勲章のために命がけになる。

日本には正直、今はそのような人はいないとは思いますが。

しかし、気持ちの高ぶりは、変わってくるのではないのでしょうか。

しかし、死と隣合わせの業務のため、日本企業が一体化したとしても、人が集まらないといった問題があるかと思えます。

そこで提案です。

日本中の企業、同盟各国が一体となり、原発問題に取り組むようにし、技術力、人員の面でも協力する。

そして、危険な現地に行って作業をする人には、給料などの待遇とは別に、勲章などを与え、石碑などに国の英雄として名を残すようにしてはどうでしょうか。

これは、人が動く時はお金のため、愛のため、名誉のためなどがあり、ナポレオンは勲章で国を動かしたと聞いたのを元に考えつきました。

勲章のために命がけになる。

日本には正直、今はそのような人はいないと思います。

しかし、気持ちの高ぶりは、変わってくるのではないのでしょうか。

この状況で自ら、原発収束に向かう人がいれば、それは間違いなく、国の英雄です。

私は、なんとなかしたいと思っけていても、そこに行く度胸もなければ、提供できる技術もありません。

本当にどうしようもないやつです。

しかし、皆が恐れる原発問題に自ら向かう人達は、その有志を誉めたたえられ、名を残す資格があるはずです。

昔の名誉のための勲章と違い、この勲章は、国民の有難うの気持ちか形を変えたものと言えるのではないでしようか。

地震、津波、放射能と、日本は課題だらけではありますが

日本人は、60年以上前、300万人以上の戦死者を出し

国を焼け野原にされ、原発を2発も食らっても、そこから

復興してきた民族です。

今度は我々が、戦後の日本の復興のような奇跡を世界中に

見せつけてやろうではありませんか！

ここまで、私の文章に付き合っ頂き有難うございました。

このレポートは

[ナポレオンヒルを読んだ、だめ男の逆襲？日記](http://ameblo.jp/ganbare dameoma jide/)
<http://ameblo.jp/ganbare dameoma jide/>

を書いている、無職ニート31歳だめ男が書いたものです。

違う分野でのアイデアもいくつかあり、とあるスポーツ会社にアプローチ中ですが、どうなるでしょう。

こちらも世界観を変えるものになり、皆さんの生活を豊かにするものになればと考えております。

真正だめ男ですが、このレポートが皆さんの力になる事を
祈って、レポートの締め言葉とさせていただきます。